SG16副議長を終えて

沖電気工業株式会社　山本（やまもと）　秀樹（ひでき）

1. 副議長としての活動に就任前の経験で役立ったこと

ITU-Tでは標準化すべき項目の洗い出しをITU-T以外のメンバーも含めて行うためのFocus Group（FG）という時限組織を作ることができる。2007年当時、ITU-T Focus Group on IPTV（FG-IPTV）が活動中であり、そのFG-IPTVへの参加が、ITU-T会合の最初の参加であった。FG終了後、FG-IPTVの成果物を議論するためにSG16にIPTV用課題Q13/16が設立され、初代ラポータに川森雅仁氏（当時NTT、現在東京大学）が就任された。そもそもITU-Tへの参加目的は、IPTVにおける視聴者の視聴履歴に関する標準の作成であったため、FG終了後も継続してSG16のQ13/16に参加するようになった。当時は、複数のSGでIPTVに関する勧告化が進んでいると同時に、ITU-T以外でも標準化が同時進行中であったため、ITU-T内のIPTVに関する課題が同時に議論を行うためのIPTV Global Standard Initiative（IPTV-GSI）と他の団体との調整を行うためのJoint Coordination Activity on IPTV（JCA-IPTV）が立ち上った。特にIPTV-GSIは会議をホストした様々な国で、勧告作成の議論、コンフォーマンステスト、ショーケース及びワークショップを行った。IPTV-GSIで、勧告草案のエディタとして寄書発表と他社提案との調整をしたり、ワークショップの発表を行うことで、ITU-T作業の経験を積んだ。ITU-Tに参加する数年前から、アジア太平洋電気通信共同体（APT）の標準化プログラム（ASTAP）の専門家グループの議長を行っていたため、SG16とASTAPをつなぐリエゾンオフィサーの役職をSG16からいただいていた。このように、2015年時点で、ITU-Tのラポータの経験はなかったが、ほかに日本からSG16副議長への立候補がなかったので、自ら立候補することにした。その結果、WTSA-16で無事にSG16副議長に就任することができた。

2. 議長・副議長として担当されたSGでの役割や心掛けたこと

2.1　WP議長という役職の確保

副議長に決まった後はワーキングパーティ（WP）議長の席の確保を考えた。当時SG16はeサービスを掲げて活動することを宣言していたため、eサービスを担当するWPの議長席を狙い、新議長のNoah Luo氏（Huawei、中国）にWTSA直後にメールを送った。その結果WP2共同議長の地位を得た。WP2共同議長は2期目も継続となった。WP2はマルチメディアeサービスというタイトルの下、配下にはQ24 ヒューマンインタフェース、Q26 アクセシビリティ、Q27 ITS及びQ28 eヘルスの4つの課題が割り当てられた。Q27が含まれているため、前SG16議長の内藤氏が担当されていたITSに関する調整会議CITSのリエゾンオフィサーの役職も確保した。

その後、会期中にブロックチェーンの課題（Q22）とデジタルカルチャーの課題（Q23）の設立があり、それらはWP2の配下に入った。その結果、WP2の課題数が最も多くなり毎回のWP会合に最も長い時間を要するようになった。2022年からの2期目はWPの再編があり、WP2はQ23デジタルカルチャー、Q24 ヒューマンインタフェース、Q26 アクセシビリティ及びQ28 eヘルスの4つとなり負荷は軽減された。

2.2　ITU-T外組織との連携

副議長としてITU-T内外でのSG16の宣伝を心掛けた。上述のCITSはITSの標準化団体が一同に介し年2回定期的に会合がある。そこでは、毎回Q27の報告を行った。更に2019年にISO TC22/SC31からの起案でSG16との間で、車両領域サービスに関する共同検討グループを立ち上げた。もともと映像符号化等の検討のため、ISO/IEC JTC1とSG16との共同検討の作業方法は確立されていたが、これはISOとSG16の2者での共同検討であったため、業務範囲記述書（Terms of reference, TOR）の作成から行った。2つの機関でのTORの承認、勧告案の議論、勧告案の承認をITU-T側の代表として主導した。当初は4件の勧告作成を計画していたが諸般の都合で1件の勧告作成だけで活動は終了した。

2.3　SG16内フォーカスグループ

会期中にWP2に関連する3つのFG、車載マルチメディアに関するFG on Vehicular Multimedia（FG-VM）、AIによる自動運転に関するFG on AI for Autonomous Driving

（FG-AI4AD）及びAIの医療への適用に関するFG on AI for Health（FG-AI4H）が立ち上がった。FGの設立提案には関わってなかったのでFG自体にも参加しなかったが、成果物をベースにした新規勧告作成に関してはWP2責任者として関与した。FG-VMの成果物に関し、FG-VM議長はほとんどそのままの勧告化を提案してきたが、FGのエディタは特に勧告化を意識した文書作成を行っておらず寄書の寄せ集めとなっていたため、その精査をQ27のラポータ（松原氏、当時三菱電機）と共同して進めた。時間を要したが最終的には勧告化できた。残念なことに他の2つのFGの成果物はSG内での議論が進まなかった。

2.4　TSAG配下のフォーカスグループ

2023年1月のSG16会合で、中国からメタバースのFG設立の提案があったが時期尚早と見送りとなった。メタバースはマルチメディア・コミュニケーション・ツールとしての可能性を秘めていると感じ、以降の会議ではFG設立の提案を行った。その結果、最終的にTSAG配下にFG on metaverse（FG-MV）が設立された。FG-MVの成果物を適切にSG16に呼び込むためにFG-MVの議長はSG16副議長のShinGak Kang氏（ETRI）に依頼し、日本としては超臨場感通信の課題（Q8/16）の議長兼WP3/16共同議長の今中氏（NICT）を副議長兼WG5相互接続性の議長と筆者のWG3基盤及びアーキテクチャの議長の役職を確保した。WG3議長としては、成果物を速やかにITU-TのSGで勧告化することを意識し、2週に一度の会議を実施し内容の充実を図った。成果物3件のうち2件はSG20へ1件はSG16に割り振られた。SG16に来た文書は現在SG21で勧告草案として議論中となっている。

3. 日本代表としての活動

副議長としては、日本からのSG16への寄書を議論するTTCのマルチメディア応用専門委員会の委員長を務め、日本としての対処方針を取りまとめると同時に、2週間にわたるSG16会合中は、2回の日本団会合を行い、対処方針に沿った活動ができるように心掛けた。任期中、マシンビジョンの業界団体、一般社団法人日本インダストリアルイメージング協会（JIIA）からTTC経由でSG16での標準化活動を開始したいという連絡を受け、様々な支援を行わせていただいた。継続して参加いただいており、今後の勧告提案などが期待される。

4. やり残したと思うこと

副議長就任後も勧告化作業を続けていたので寄書を出していた。2023年からはQ27/16のラポータも兼任した。Q27は寄書数が増加傾向にあり、それに伴い会議数も多くなった。結果として、SG16の承認候補の勧告草案をじっくり検討する時間があまりとれなくなった。もっと事前に検討すべきであった。副議長終了後も、後継のSG21のWP2議長とQ27/16の後継のQ10/21のラポータは継続しているので会議中の忙しさは変わらない。今後は、承認候補の勧告草案の検討を会合前に行い結果をコメントとして付けた寄書を出すようにしたいと考えている。

5. これからITUに関わる活動をされる方、役職を目指す方へ

自社の技術や製品を国際標準化して海外に販売しようとされている方にとって、ITU-Tは企業も参加できる唯一の場であり、日本が比較的良いポジションを占めている場である。そのため、国内で様々な支援を受けられる可能性がある。是非チャレンジしていただきたい。ITU-Tの役職は更に大所高所から製品や技術を考えるきっかけになる。今後も日本から役職を得て新しいことにチャレンジする人が続くことを切に希望する。

（2025年3月17日 ITU-T研究会より）